

問題はつぎのページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 ジュンパクの雪が積もっている。
- 2 凝ったデザインでソウテイする。
- 3 大陸を車でジュウダンする。
- 4 学級ニツシに記入する。
- 5 枚挙にいとまがない。
- 6 自然の神秘に心を打たれる。
- 7 老若男女が同席する。
- 8 運動場で鉄棒の練習をする。

問二 次の慣用句の空欄にそれぞれ漢字一字を入れなさい。また、そのことわざの意味として正しいものを下段のア～エからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 水泡に す
- 2 も形もない
- 3 報いる
- 4 にかじりついても
- 5 山の一角

- ア 相手の攻撃に反撃し、少しでも仕返しをする。
- イ どんなに苦労しようとも。何としても。
- ウ 努力した甲斐がなく、失敗して、無駄になる。
- エ 大きな物事のほんの一部分。
- オ そこにあった様子などまるでない。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それでも鳥は、移動する

賢明な読者諸氏は、すでに気になっているかもしれない。渡り鳥は、季節が過ぎればまた移動してしまう。ならば、新たな島が現れて偶然そこを訪れようと、その鳥はまた春になると北に向かって飛んでいってしまう。つまり、彼らはあくまでも百代の過客であり、その島に定着しないのではないかと。

たしかに多くの場合はその通りだ。しかし、ときには飛来した鳥が故郷に帰ることをやめ、新天地に新生活を求めることもある。
小笠原諸島では、戦前には生息記録のないトラツグミが1960年代頃から繁殖をはじめ、現在は諸島内のほとんどの島に分布を広げている。大東諸島では、在来のダイトウウグイスが絶滅したが、北方から渡ってきたらしいウグイスが1990年代から定着した。喜界島では、過去に冬鳥として飛来していたモズが、2000年代から繁殖するようになった。

鳥類の分布は一定ではなく、常に分布拡大を狙っている。彼らは、西部劇や北海道にも引けを取らない開拓者精神をもっているのだ。
移動をするのは渡り鳥だけではない。一般に渡りをしない鳥でも、人生のある時期に長距離移動することがある。たとえば、スズメは一年を同じ場所ですぐす鳥だが、若鳥はときに数百キロを移動することも珍しくない。新潟で脚輪をつけられた個体が、約600キロ離れた岡山で見つかったこともある。

ある個体が生まれ育った場所には一族郎党が多いだろう。この場合、集団としての結びつきが強くなりそれはそれで利益になるだろう。
I、近親交配が進みやすく遺伝的な問題が生じる可能性もある。近親者同士での資源を巡る競争という、骨肉相食む昼ドラ的不都合もあるかもしれない。
II 動物界では、出生地にとどまらず別の地域に移動するという戦略が生じることがしばしばあるのだ。

このような移動は主に若鳥によるもので、出生分散と呼ばれる。無謀に見える挑戦ができるのは若者のトッケンだ。
III、地の利のない地域での生活は心細く、寂しくて死んじゃうかもしれない。
IV、そんな移動性の個体がいるからこそ新時代が幕開けるのだ。大

都会での一人暮らしの思い出は、不安よりも希望に彩いろどられているものである。

名は体を表さないときもある

陸域で生活する鳥を陸鳥と呼ぶ。これに対し、海を生活の場にしたキヤプテン・ハーロックのような鳥を海鳥と呼ぶ。海鳥なら海の生物ではないか、陸地である島の話に口出すなバカモノ、と疑義を唱える人もいるかもしれない。確かにその意見ももっともだ。しかし、海鳥とはいえ一生を海上で過ごすわけではない。

彼らも繁殖はんしよくには陸域を使う。カモメやアホウドリは草地に、ミズナギドリやウミツバメは地中に、グンカンドリやシロアジサシは樹上に巣を作る。とにかく、海上に巣を作る鳥はいないのである。

C 海鳥のよいところは、陸地にたいした期待をしていないところだ。生活の基本は衣食住である。服を着る鳥はチキン・ジョージぐらいだし、海鳥の食物は海産物である。このため、住を充足じゅうじやくさせる大地だけあれば、海鳥は島で暮らせるのだ。

ホヤホヤの島には土もなければ木もない。そのような状況じょうきやうでも、地上や岩棚いわだなに巣を作る海鳥なら難なく繁殖できる。クロアジサシは、漂着ひょうちやくした木の枝や、ときには骸むくろとなった同胞どうほうの骨を使って巣を作る。アナドリは巣らしい巣も作らず、岩陰いわかげに卵だけを産んで安心する。このように、陸上生態系に依存いせずに生きられるのは、海鳥のアドバンテージである。

しかも、その移動能力の高さは折り紙付きである。アホウドリの仲間なら、風に乗り時速100キロも夢じゃない。グライディングでの飛翔ひしょうはエネルギー効率がよく、長距離移動を苦にしない。食物となる魚が多産する場所まで1千キロ移動し、また1千キロ戻もどってきて平気な顔をしていたりする。ガラパゴスアホウドリに発信器をつけた研究では、1回の採食のために延べ3500キロも移動した例もある。ちょっとコンビニ感覚で、東京から札幌さっぽろまでラーメンを食べに行けるのだ。

さらに海上に浮かんで休息することもできる。世界の海は俺おれの海といわんばかりに、大洋のど真ん中にも到達とうたつできる。どんな新島も彼らの目から逃のがれることはできない。

空は誰のもの^{だれ}

空を飛べる動物は鳥だけではない。自発的な飛翔は、ラムちゃんをはじめとして、哺乳類^ほであるコウモリや昆虫^{こん}も行う。

コウモリは熱帯を中心に多くの島に分布する。海洋島である小笠原諸島や大東島にもオオコウモリがおり、夜になるとギイギイ騒ぎ^{さわ}ながらわっさわっさと飛んでいる。ミクロネシアやメラネシアなど太平洋の島々にも分布する。空を飛び海上を移動する能力をもつ点で、彼らは鳥と同じ意味をもつのだ。ヤマコウモリやオヒキコウモリの仲間では、渡りを行う種さえいる。

昆虫が空を飛ぶこともご存知の通りだ。ウスバキトンボやアサギマダラでは、海を越えて渡りを行う。海を舞台^{ぶたい}に生活するウミアメンボというチャレンジ^Eングな昆虫もいる。自発的な飛翔により島に到達することができる動物は、多くはないものの鳥だけではないのだ。

一方で、ムササビやモモンガ、トビトカゲも空を飛ぶが、彼らの飛行はどちらかというと落下に近い。皮膚^{ひまく}を広げて落下速度を和らげ、斜^{なな}め方向に落ちていつているようなもので、ジユウジザイ^③に空を飛べるわけではない。たとえ海沿いの断崖絶壁^{だんがいぜつぺき}からジャンプしても、せいぜいライフセーバーの手の届く範囲^{はんい}に落下してしまうので、島への到達は難しそうだ。

(川上和人『そもそも島に進化あり』)

*1 新たな島：本文には含まれていないが、ここまでの文章で筆者は、島が新たに誕生する方法はいくつかあり、現在でも世界各地で新島が生^えまれ続けていることを述べている。

*2 百代の過客：江戸時代の俳人である松尾芭蕉の『奥の細道』に出てくる表現。永遠の旅人の意味。

*3 寂しくて死んじゃうかもしれない：筆者によると一九九〇年代後半にテレビドラマの影響^{えいぎやう}によってウサギは寂しいと死んでしまうという説が流れたという。

*4 キャプテン・ハーロック：漫画家である松本零士の作品に登場する宇宙海賊^{かいぞく}の名。

*5 チキン・ジョージ：漫画家である楳図かずおの『14歳』という作品に登場する、人間の体にニワトリの頭をもつキャラクター。

*6 ラムちゃん：漫画家である高橋留美子の『うる星やつら』という作品に登場するキャラクター。飛行能力がある。

問一 ――線部①③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 空欄 I Ⅳ にあてはまる語句として適切なものを次のア～オから選んで記号で答えなさい。

- ア ところで イ その一方で ウ しかし エ このため オ もちろん

問三 ――線部A「飛来した鳥が故郷に帰ることをやめ、新天地に新生活を求めることもある」とありますが、その具体例としてあげられているものとして適切でないものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 小笠原諸島のトラツグミ イ 大東諸島のダイトウウグイス ウ 喜界島のモズ エ 北方から渡ってきたウグイス

問四 ――線部B「移動をするのは渡り鳥だけではない」とありますが、その例としてあげられている「若鳥」が生まれた場所を離れ、移動するのはなぜか。その理由を述べた次の文の空欄にあてはまる言葉を二つ、十四字と十六字で本文中より抜き出して答えなさい。

- | | | |
|---|-----|---------------|
| ① | 十四字 | が起こる可能性があるから。 |
| ② | 十六字 | が起こる可能性があるから。 |

問五 ――線部C「海鳥のよいところは、陸地にたいした期待をしていないところだ」とありますが、それはどういうことですか。解答欄の「海鳥は」に続くかたちで本文中より十六字で抜き出して答えなさい。

問六 ――線部D「東京から札幌まで」とありますが、東京から各都市までの距離を示した次の空欄に当てはまるものとして最も適当なものを後のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

東京から北海道札幌市	・	①
東京から沖縄県那覇市	・	約一六〇 km
東京から兵庫県神戸市	・	②
東京から宮城県仙台市	・	約三〇〇 km

ア 約二五〇 km イ 約四三〇 km ウ 約八三〇 km エ 約二四〇〇 km

問七 ――線部E「ムササビやモモンガ、トビトカゲ」は本文中で話題になっているコウモリや昆虫とどういった点で違うと筆者は述べていますか。「ムササビやモモンガ、トビトカゲは」に続けて四十五字以内で答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ずつかいなさい。

自発的な飛翔 ・ 島への到達 ・ 海

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

思いだす。十年前。初めての告白。

いや——そんなにすぐには思いだせない。十年は遠い。思い出に年月の膜がかかっている。

小一の椎太。小一の私。ついこの前まで幼稚園に通っていた私たちは、まだ本当に子どもだった。異性への意識どころか自意識すらもおぼろだったあのころ。

幼稚園よりもはるかに大きな小学校という箱に入れられて、目がまわるような大集団の一員にさせられた。学校の先生。上級生。同級生。一気に人生の登場人物が増えて、毎日、心細かった。担任の先生。クラスの子。近くにあった顔ですらぼんやりししか思いだせないのは、私がいつもぼんやりしていたせいだろう。

A 不確かに煙ったその世界から、ひとつの顔が鮮明な光を放って浮かびあがってきたのは、いつのころからだろう。

二学期の席替えて、男子のあいだでシートケと呼ばれていた男の子となりの席になった。原田椎太くん。授業中はずっとときよろきよろ、休み時間は教室中を駆けまわって、年じゅう体のどこかをすりむいている。落ち着きのない子。最初はその程度の認識だった。

ある日、月に一度の「お弁当の日」に、その男の子がちょっとした騒動を起こした。

私の横でまたたく間にお弁当箱を空にした彼は、続けざまに小ぶりのタッパーを開き、ぼりぼりと音を立てはじめた。横目でうかがうと、彼が食べていたのは柿ピーだった。

ぼりぼり。ぼりぼり。お弁当に**あるまじき**音に注目したのは私だけじゃなかった。彼のまわりに軽い動揺の波が広がっていく。

ついに一人の子が声をあげた。

「シートケがおかし食べてる！」

今度は教室中が椎太に注目した。

しかし、椎太は平然と言った。

「おかしいじゃないよ。甘くないから」

C これが大論争の引き金となった。

「甘くなくても、おかしだよ」

「柿の種はおとなのおかしだと思う」

「おかしは持ってきちゃいけないんだ」

「あたしのお弁当もこんにやくゼリー入ってるよ」

「こんにやくゼリーはおかしじゃないよ。こんにやくだよ」

「じゃあ、柿の種だっておかしじゃなくて、柿かもよ」

「なんだそりゃ」

クラス中がやんやと言いつつ、椎太だけはただ一人、表情も変えずにぼりぼりと柿ピーをかじりつづけていた。その腹のすわった横顔①に私は魅せられた。そもそも、この子は辛くないのだろうか。舌のしびれる柿ピーをよゆうしゃくしゃくで咀嚼②している椎太に、妙な尊敬心もめばえてきた。

「みんな、人のことはいいから、自分のお弁当を食べましょう。椎太くん、先生も柿の種はデザートにならないと思うな。今度は本物の柿をお母さんをお願いしてね」

ついに担任の堀川先生が収拾③にのりだしたところには、椎太の柿の種は残すところ一粒④となっていた。椎太はそれを大事に指ではさみ、別れを惜しむようにまじまじと見つめた。

私はつい口走った。

「ピーナッツじゃないんだ」

椎太のぎょろとした目がこっちを向いた。

「ピーナッツ？」

「うちのパパ、いつもおしまいにはピーナッツだよ」

ふうんと流して、椎太はまた柿の種に見入った。

そして、あのひとことを口にした。

「あのさ、この種、植えたら木になって、柿の種が生えると思う？」

生らない。ぜったいに生らない。今なら神に誓^{ちか}って言える。が、当時の私はまだそれほどこの世界の原理に自信がなく、たぶん生らないだろうと思いつつも「わかんない」とあいまいに首をゆさぶった。そして、「ためしてみようぜ」という椎太の提案に、なぜだか即座^{そくざ}にのった。生る生らないさておき、おかしの種を植えるなんておもしろそう、と思ったのだろう。

大事に取っておいた卵焼きをお弁当箱に残したまま、私は椎太につれられて校庭へ走った。柿ピーの種を植える場所に、椎太は人目のつかない花壇^{かだん}を選んだ。

「だれにも言うなよ。大きくなってから、びつくりさせるんだから」

こうして秘密^Eを共有した私たちは、以来、芽が出てこないかと昼休みのたびに花壇へ通いはじめた。内心「まさかね」と思っていた私の横で、椎太は毎回本気で期待して、本気でがっかりしていた。徐々に私は椎太のために芽が出来ますようにと願うようになった。

父の好物だった柿ピーにトライしはじめたのもそのころだ。椎太のあの堂々たる食べっぷりにあこがれて、私は苦手だった柿ピーとの親睦^{しんぼく}をはかった。最初は一粒、つぎの日は二粒と、少しずつ食べる量を増やしてピリ辛^{しげき}の刺激に舌を慣らした。そして、やみつきになった。③もしも柿の種が実ったら、パパのをわけてもらわなくても、好きなだけ食べられる。そんな野心を抱^{いだ}くのにさほど時間はかからなかった。

もちろん、柿の種は実らなかった。昼休みの花壇へ向かう私たちの足はしだいに重くなり、種植えから十日ほどが経ったころ、ついに椎太が音をあげた。

「今日、もし芽が出なかったら、あきらめよう」

曇天^{どんてん}の肌寒い昼下がりの花壇。私はいつになくどきどきしながら例の一角に目をこらした。

芽は出ていない。その瞬間^{しゅんかん}の失望は、柿の種を好きなだけ食べられないことよりも、椎太ともう一緒^{いっしょ}に昼休みをすごせなくなることに由来していたと思う。

「チツ。やっぱりダメか」

椎太も落胆^{らくたん}をあらわにし、花壇をかこむレンガにへたりと腰^{こし}を落とした。

「毎日^{まいにち}うんと祈^{いの}ったら、魔法^{まほう}が起これると思ったのに」

「種^ほ、掘^ほって、見てみる？」

椎太の横に座って聞くと、

「もういいよ。蟻ありにやる」

「蟻、辛くてびっくりしないかな」

「あーあ。森、見たかったなあ」

人の話を聞かずに椎太は言った。

「森？」

「ぼく、柿の種の木を育てて、こんなにでっかくして、それで、それを森にしたかったんだ」

こーんなに、とのけぞるように大きく両手を広げて、椎太は声を力ませた。

「柿の種の……森？」

「うん、森。その森をいっぱい増やして、世界中に増やして、あっちこっちで、ざっくざっく柿の種が生って、みんなで食べるんだ。食べても、食べても、森だから、なくなないんだ。そしたら、みんな、お腹いっぱい、幸せになるでしょ」

きらきらした目で椎太が言って、「でも」と顔をうつむかせた。

「魔法、起こらなかった」

「椎太くん……」

自分の胃袋いぶくろのことしか考えてなかった私あつこに対して、椎太は人類全体の幸福を思い、種の萌芽ほうがを待っていた。世界の津々浦々つつうらうらに広がる柿の種Fの森。その壮大なヴィジョン*2に圧倒あつとうされて、私は心の底から感じ入った。この男の子は、なんか大きい。そして、とってもあたたかい。

「椎太くん」

椎太を見つめて、私は言った。

(森絵都「ヒカリノタネ」)

*1咀嚼：食べ物を十分に消化できるように口の中でよくかむこと。

*2ヴィジョン：将来の構想や展望。将来を見通す力。

問一 ―――線部①く③の本文中での意味として最も適切なものを後から選んで記号で答えなさい。

① 「腹のすわった横顔」

ア 覚悟の出来た横顔

イ 何事にも動じない横顔

ウ 怒りにふるえている横顔

エ 無表情で無関心な横顔

② 「收拾にのりだした」

ア 回収しだした

イ 解決しようと動き出した

ウ 拾得することができた

エ 選択しようと決めた

③ 「やみつきになった」

ア 何とか克服した

イ 願いはかなわなかった

ウ ずいぶんと慣れた

エ 熱中してやめられなくなった

問二 ―――線部 A 「不確かに煙ったその世界から、ひとつの顔が鮮明な光を放って浮かびあがってきた」とありますが、これは私のどういった状況を説明したものですか。次のアくエから最も適切なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 幼稚園に入る前は物心もつかずに記憶もあいまいだったが、幼稚園に入ってから友人の顔もはっきりと思い出すことができるという状況。

イ 小学校入学前のことは記憶もあいまいではっきりしないが、小学校の担任の先生や友人の顔と名前ははっきりと思い出すことができるという状況。

ウ 小学校入学後もずっとぼんやりしていて担任の先生やクラスの子の顔でさえはっきり思い出せないのが、だんだんと自意識も記憶もはっきりしてきたという状況。

エ 小学校入学後も自意識がおぼろではっきりしないが、男子のあいだでシータケと呼ばれていた男の子ことははっきりと思い出すことができるという状況。

問三 ——— 線部 B 「軽い動揺の波」がおこるきっかけとなったのはどのようなことですか。次の一文の空欄に当てはまる語句を、①は三字、②は九文字、③は三文字で、それぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

私の横の席の原田椎太くんが① 三文字 の時に② 九文字 ながら③ 三文字 を食べ始めたこと。

問四 ——— 線部 C 「大論争」とありますが、どのようなことについての「大論争」か。次の中から最も適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 小学校のお弁当にこんにやくゼリーをもってきてもよいか、について
- イ 小学校のお弁当におかしをもってきてもよいか、について
- ウ 柿の種はおとなが食べるものかどうか、について
- エ 柿の種はおかしがおかしではないか、について

問五 ——— 線部 D 「まじまじと見つめた」とありますが、この時の椎太の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア この柿の種がおかしに入るのではないと言われてしまったことにショックを受けて、悲しい気持ち。
- イ 食べていた柿の種の最後に残ったのが、柿の種と一緒に入っているピーナッツでなかったということが残念な気持ち。
- ウ 食べていた柿の種が最後の一粒になってしまい、悲しい気持ちであると同時に、この柿の種について考えている。
- エ 先生から柿の種はデザートではないと言われてしまい、次からは柿の種をお弁当に持ってこられなくなったことに落ちこんでいる。

問六 ――線部 E「秘密を共有した私たち」とありますが、「秘密」とは、具体的に誰と誰がどのようなことをする秘密ですか。二十字以内で書いて答えなさい。

問七 ――線部 F「壮大なヴィジョン」とは、どのようなヴィジョンですか。七十字以内で書いて答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使用しなさい。

柿の種 ・ 森 ・ 人類全体の幸福

問八 本文中の「あるまじき」と同じ意味・用法の「あるまじき」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。